西多摩医師会報

第73号 昭和53年10月

無人駅　　青梅　近藤　肇

目　　次

時報
麻しん接種前後の措置に十分な検討を
麻しんの定期予防接種について
公衆衛生部　松原　貞一…2
学術
原因不明の強度の呼吸困難・チアノーゼが長期間持続し、死亡した一症例
青梅市立総合病院内科　荒巻　武彦…4
青梅市立総合病院内科　大島　大知…4
文芸・随筆
医学文化館見学記……市原　靖…6
およしばあさん……植田　稔…10
モンキー・アラウンド……道又　正達…11
保険部だより……13
談話室……米山　秀雄…13
医師会日誌……14
同好会だより……川崎健一郎…15

時　報

「麻しん接種前後の措置に十分な検討を」

松　原　貞　一

麻しんの定期接種（個別接種方式）が10月から開始されるが、麻しん予防接種の実施についての説明が8月30日全国防疫担当者会議（厚生省内）の席上で行われた。

麻しんの定期接種については、同接種の実施要領、実施体制、接種時の注意等実施の細目を定めた局長通知及課長通知が出されているが、個別接種方式の周知を図るため、質疑応答の場が設けられ実施に当っての問題点に答えたのでその要点を掲載して参考としたい。

問1　市町村、地域医師会で運営される施設とは（接種場所）。

答　保健所、市町村保健センター、母子保健センター、休日夜間診療所、医療センター等。

問2　「10月から一斉に接種を開始する必要はない。早速は避けてほしい」と厚生省は言っているが、その真意は。

答　ほとんどの市町村が初めての経験であり、実施前の準備、実施後の対応に万全を尽してもらうために言ったもの。

具体的には、実施前の注意として、①医師会との協力体制、②接種年令、③ワクチンの医師への配布、④接種時期。等。

実施後の注意には、①救急措置、②健康被害調査委員会の設置、③問診票の取扱い、④接種手数料の支払い方法、費用徴収の問題。等。

問3　10月から実施できない場合一部の者が政令からはずれるか。

答　原則的に定期をはずれた場合、いくら義務づけしても定期の接種とはならない。義務づける場合にはある程度の期間をみてほしい。

問4　生後36月以上72月に至る期間の者についての接種のあり方は（課長通知では生後18月から36月の間が望ましいとしている）。

答　「落ちこぼれ対策」としてかなり長い期間（12月から72月）を定めた。余力のある都道府県は3ケ年計画で、落ちこぼれをカバーしてほしい。

問5　市町村が公告する対象者以外の者が市町村の承諾医のもとで個別接種をした場合、事故救済の対象とならぬか。

答　事故救済の対象とならぬ。市町村が義務づけ（公告）をしない場合には、完全な定期の範囲といっても、任意の接種になる。

問6　個別接種の協力医師については診療科目に制限をつける必要があるのか。

答　医師なら誰でもできる。

問7　ワクチンの供給は。

答　7月末で100万人分を確保、したがって、対象人員500万人全員に接種する余裕はない。

問8　基準単価3747円の積算基礎を示してほしい。又積算内訳は、日医と協議したのか。

答　積算については、ワクチン単価と諸経費に分かれているが、諸経費は、個別接種を推進するという意味から、診療報酬点数表乙表を参考に精算してある。なお、改めて日医とは協議していない。

問9　健康被害の発生によって接種医の信用問題が生じるおそれがあるが、その対応策は。

答　難じい問題だが、今後、十分検当しなければならぬ。日医でも会長名で全国に「従来の経験で対処してもらいたい」と通知している。

信用回復の方法は地域によってもかなり差違があるらしい。

問10　問診表は市町村と診療所の何れが保管すべきか。保存年月は。

答　本来は市町村が保管すべきであるが、麻しんは個別接種であり、カルテに問診票を付けるので、診療所でもよい。年限は5年位が妥当であるが、特に異常が認められた場合は厳重に保管してほしい。

問11　既に罹患した者の、接種の要否の認定は保護者の申立てによってよいか。

答　保護者の申立てによって認定してよい。

問12　医療機関で個別接種を実施する場合、市町村、接種医師の行う分担と方法はどうなるのか（ワクチンの購入保管、接種用具の整備、接種料の徴収は、市町村か医師か）。

答　全国一律といったものはなく、市町村と医師会と十分話し合い実施してほしい。

尚長谷川保健情報課長は実施上の注意として、2才あたりに接種の個人通知を行ったらいいと考えている。個別接種が基本であるから接種前の健康教育、接種後の対応措置に万全を期してほしいと言っている。

麻疹の定期予防接種について

公衆衛生部　松　原　貞　一

予防接種法に麻疹が組み込まれ、市町村によっては予算その他の関係で多少接種を始める日時にずれがあるようでありますが、羽村町においては法の定めるように10月1日より開始出来るようその体制を備えています。麻疹の予防接種については、本会報にも度々記し情報としてお知らせして来ましたが、今回実施の時期に当り再度実施の要点を列挙してみます。

1）実施体制……西多摩地区に於ては、予防接種はこれ迄総て市町村雇い上げ方式による集団接種で実施されていますが、今回の麻疹に関しては法令により原則として個別接種ということになっていますので、これ迄の集団会場方式ではなく従来任意で行なわれていた麻疹ワクチン接種と同様各医院で実施することが原則となりました。従って従来は出動手当を市町村は医師に払うだけですんでいたのですが、今回市町村は各地区の医師会と接種料はいくら、事故あった時はどうする等々の契約を結ばなければなりません。

2）免責問題……予防接種法が改正されて、医師は接種事故に遭遇した場合、たとえそれが医師の過失であったとしても〝重大な〟過失でない限り、原則として訴訟に巻き込まれることはないことになっている。このことは前記市町村と行う予防接種についての契約書の中にも明記されることになるが、市町村長が出す予防接種協力依頼書とこれに対して我々が捺印する承諾書によって更に明確となる。一昨年法改正時当西多摩地区では予防接種という字句を使っただけで集団及び個別接種のどちらにおいても事故は市町村が責任をとるというはっきりした承諾書を書いていないので今回接種を始めるに当っては契約書の交換と共に依頼書、承諾書の関係も集団、個別と明確に書き直す必要がある。

3）接種料……予診料、ワクチン代を含めて3700円、予診のみで接種を行なわなかったものについては予診料として1000円とし、今回は都は一銭も出さないとのことで市町村持ち出しの公責負担で行なうことになっている。

4）実施の手順……市町村は個別に発送する書類又は広報で、対象者であることを通知する（今回の対象は①65～72ケ月　②18～24ケ月　③29～36ケ月）。対象者で麻疹の既往がなく又ワクチン接種もうけたことのない者は役場へ行って問診票その他必要な書類を貰い、市町村の指定する（契約関係にある）医療機関に行って接種をうける。接種を行った医療機関は夫々件数に応じた接種料を市町村に請求する。かかりつけの主治医が隣接市町村である場合もありうるが、この問題は後日医師会の責任で解決することになるので、差し当っては市町村内の医療機関へ行くことになる。

5）実施方法……麻疹ワクチン接種に当っては予防接種の一般禁忌の外、麻疹の潜伏期にあると思われるもの、3ケ月以内にγグロブリンの注射をうけたものにはやらない。麻疹ワクチンによると思われる脳炎が我が国でも年間数例あることが知られているので、痙攣についての判断は慎重に行なう。6才を1日でも越えている者については、たとえ問診票など必要書類を持参して来たとしても、後日市町村に接種料を請求することも出来ず、又事故あった時は法による救済がうけられ

ないので注意する。ワクチンはシュワルツ（武田）カム（阪大微研）アイク（北研）があり何れでもよい。ワクチンは各医療機関毎に購入し、5度C以下といわれているが、バイアルだけ取り出してフリーザーの中で凍結保存するのが力価が落ちず最もよい。保存が悪く力価の低下したワクチンを接種すると、抗体価が上らず後日麻疹に罹患することがある。充分な力価のあるワクチンであれば、接種後たとえ翌日感染したとしても潜伏期のうちにワクチンによる抗体上昇が現れるので発症しないとされている。1回の接種により終生免疫が得られる。麻疹脳炎など重篤な合併症の危れのある時は、保健所へ連絡すれば保健所より都立病院（当地区では清瀬小児病院）へ入院の手配をして呉れる。接種事故が起った場合は、医師会の医療事故対策委員会に連絡すれば以後の処置は東京都医師会の特別対策委員会が問題の処理に当って呉れる。たとえ過失があっても重大でない限り、裁判所へ出頭したり、賠償金を払ったりすることはない。尚7～8月は夏かぜの流行期であり、麻疹ワクチンの副反応と区別がつかなくなるので、接種は行なわない。

学　術

原因不明の強度の呼吸困難・チアノーゼが長期間持続し、死亡した一症例

青梅市立総合病院内科　荒　巻　武　彦
大　島　大　知

患　者　70才女性

主　訴　呼吸困難・チアノーゼ

既往歴　子供の頃から、心臓が悪いといわれ、走ると息切れがあり、教師に走ることを禁止されていた。

昭和16年　虫垂切除術

昭和20年　急性腎炎（阪大に4ケ月入院）

昭和46年　気管支ぜんそく

常用薬物：昭和16年～30年頃まで救心。

タバコ：昭和48年頃まで30本/日。以後禁煙。

現病歴　これまでも、フトンのあげおろしの際、息苦しいことはあったが、それ程悪いとも考えず放置していた。

昭和50年2月上旬より顔面にむくみが生じ、呼吸困難も出現した。右側臥位をとると楽だが、左側臥位になると苦しく、夜間毎晩汗びっしょりかいた。昭和50年2月20日精査のため第1回入院。

理学所見では、脈拍75／分、呼吸数60/分体温37.1℃　血圧126／56　顔面浮腫様 肺聴診で右肺にラ音　腹部所見では右季肋部に圧痛および抵抗あり（肝腫？）　四肢浮腫なし

検査データは別表。

利尿剤・強心剤没与で症状も軽快し、昭和50年3月17日退院。

以後調子が良かったので来院せず。しかし昭和51年6月頃より、再び少し歩行すると息切れするようになり、6月17日外来受診。口唇にチアノーゼ。7月17日第2回目入院。

理学所見で、肺では湿性ラ音が全肺野で聴取され、心音は弱。軽度の下肢の浮腫。

検査データは別表。

入院後強度の呼吸困難が続き、血液ガス分析でO_2飽和度47.0％と低下。輸液、アミノフィリン、抗生物質（ケフリン6g／日）、酸素吸入を開始。数日のうちに落ちつく。

しかし、以後もベッドで安静を保てば、息苦しさもないが、トイレに行くだけで息苦しくなるという状態が続いた。

動静脈シャントの疑いもあり、精査のため昭和51年12月6日～昭和52年4月13日まで、日赤医療センターに転院。肺血管造影では動静脈シャント認められず。肺機能検査で混合性換気障害がありチアノーゼの原因を一応“肺の換気障害に基づくものと考える”とのことであった。ただ、日赤医療センター入

院中に撮影した胸部写真で、左上肺野にはじめて異常陰影が認められた。

昭和52年4月13日、日赤より本院へ転院。第3回目の入院となる。

本院転院後 呼吸困難が強くチアノーゼも著明。左上肺野の腫瘍様の陰影も次第に大きくなり、昭和52年9月19日死亡した。

検査データ

第1回入院時：検尿では反応5.4比重1.026 蛋白(+) 糖(−) ウロビリ(++) 潜血(−)
血算：赤血球数 488×10⁴ 血色素量15.8 ヘマトクリット50％ 白血球数6,900
血液像MM(+) St 22 Seg59 Lym16 M3 CRP1(+) RA(−) 赤沈2／時
生化学：T. P. 6.3 A／G 0.75 GOT 28 GPT 18 Aℓ-P 5.0 Cholest190 U-N 11.7 Na 136

第2回入院時：検尿では反応5.4比重1.030 蛋白(+) 糖(−) ウロビリ(±) 沈渣 赤血球2～3／毎視野、白血球2～3／毎視野 潜血反応(+)
血清：赤血球数 433 × 10^4 血色素量13.4 Ht 43％ 血小板 22.9 × 10^4 白血球数8,200 血液像St5 Seg66 Lym 21 M6 E1 B1 CRP 4(+) 赤沈20／時
生化学：FP 5.7 A／G 1.59 TTT0.9 ZST 6.0 GOT 12 GPT 5 Aℓ-P 5.5 Cholest 154 LDH 342 U-N 13.1 Na 143.2 K 4.0 Cℓ 101.2
肺機能検査：努力性肺活量0.69ℓ ％肺活量31％ 1秒率49％
血液ガス分析検査：PH 7.287 PCO_2 59.5 mm Hg
BE ＋0.1 mEq／ℓ Stand Bicarb 24.7 mEq／ℓ
Actual Bicarb 28.0 mEq／ℓ
Total CO_2 29.5 mEq／ℓ PO_2 29.5 mmHg
O_2 sat 47.0％

A-550 UJIIYE, KIMIKO 70 yrs. F. Origin: Med. Clin. (Dr. T. Aramaki)

Exitus : Sept. 19, 1977 (12:15)
Autopsy : Sept. 19, 1977 (14:30) p.m. ca. 2.5 hrs.
Performed by Drs. Y.Tsuruta and M.Ohshima; Examined by Dr. S.Yoshino
Reviewed by Dr. Y.Mitomo

Clinical diagnosis : Cyanosis and dyspnea on exertion, complicated with lung cancer

Pathological-anatomical diagnosis:
Oat cell carcinoma of the left lung with extensive intrathoracal lymphogenous metastasis.

A. Carcinoma of the left lung:
1.An over hen's egg sized, whitish tumor in the left upper lung lobe, arised from the main bronchus with multiple, small daughter nodules scattered around the main tumor extending to the left pulmonary hilum and showing radiary spread along the bronchi. Histologically oat cell carcinoma.
The remaining lung tissue with marked congestion. Moderate emphysema of the left lower lung lobe. (500 g.). Marked fibrous adhesion of left pleura.
2.Lymphogenous spread:
a) Marked intrapulmonal, lymphogenous spread of carcinoma.
b) Several, up to walnut sized metastases to the left hilar and thumb tip sized metastases to the right hilar nodes.
c) A few, up to hen's egg sized metastases to the paratracheal nodes.
d) Several, small hen's egg sized metastases to the mediastinum.
3.Hematogenous spread:
a) Numerous, up to finger tip sized metastatic nodules in the liver (780 g.).
b) Several metastatic nodules in the pancreas (100 g.).
4.Carcinomatous pericarditis ; Brownish pericardial effusion (25 ml.).
Direct invasion to the pericardium from the left tracheo-bronchial nodes with metastatic necrotized hemorrhagic change.

B. The other findings:

1. Moderate hypertrophy of the heart 270 g. with mild coronary arteriosclerosis.
2. Chronic bronchitis with squamous metaplasia of the right lung (250 g.) with mild athelectasis and occasional anthracosis.
3. An azuki sized hamartoma of the right lower lung lobe.
4. Erosions and small shallow ulcer of stomach.
5. Slight arterionephrosclerosis of bilateral kidneys (110:130 g.).
6. Moderate congestion of the spleen (45 g.) with atrophy.
7. Slight fatty droplets of liver with congestion.
8. Slight edema of the brain. (1290 g.).
9. Nodular hyperplasia of adrenals (5.8:3.7 g.).
10. Moderate atherosclerosis of aorta.
11. BW 47 Kg. BL 150 cm.

Comment:

A lung carcinoma arising at the left upper lobe of 70 yera old female showed extensive lymphogenous metastases, one of which at the mediastinal and paratracheal nodes invaded to the pericardium, resulting in Vena cava superior obstruction and archus aorta compression.

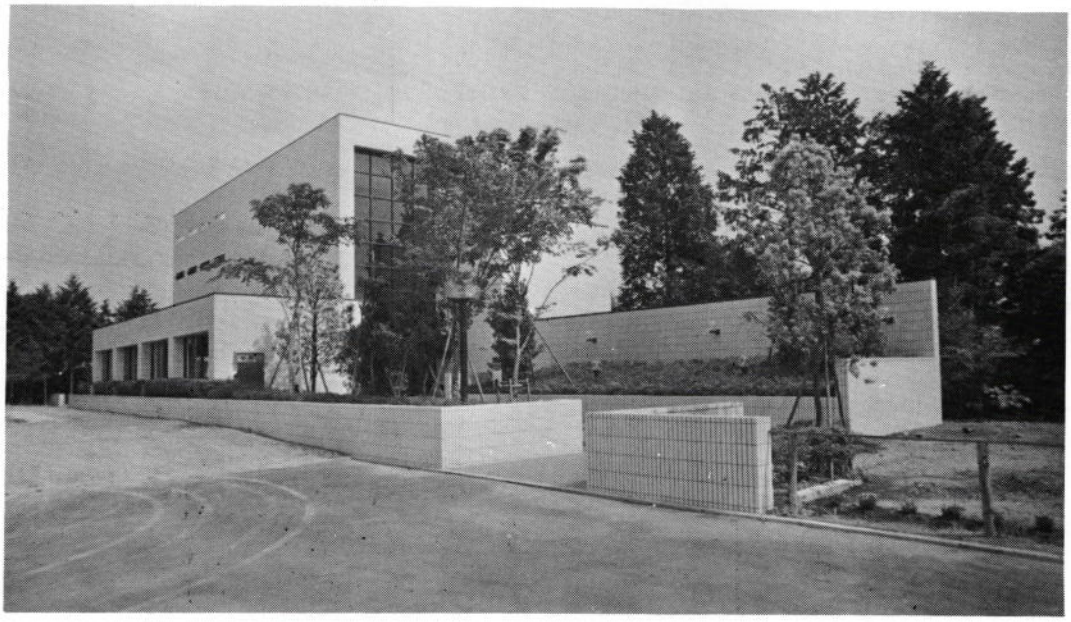
However, Energic clinical examination was not told in her clinical history, about the cause of cyanosis, dyspnea and shortness of breathing on exertion from which she suffered for two years. The immediate cause of death should be respiratory insufficiency.

Feb 14, 1978　Drs. S.Yoshino and Y.Mitomo.

文芸・随筆

「医学文化館」見学記

聖明園市原診療所　市　原　　靖



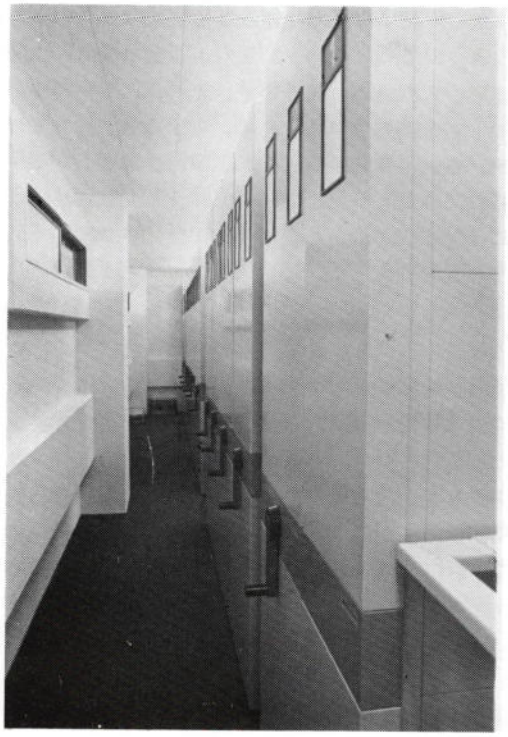
東青梅駅北口から飯能街道を車で５分、バス停聖明園前でＳ字状の坂道を上ると、右に特別養護老人ホーム富士見園、左に盲老人ホーム聖明園が拡がる。その奥に白亜の医学文化館が建っている。入口を入ると白の壁と黒の床の対称が鮮やかで、吹き抜けの２階天井にゴシック模様の二面のステンドグラスが落着いた調和を醸し出している。そしてホール右手の壁に嵌めこまれた60　字体の

「医」の文字がこの洋館の性格を象徴しているかのようである。ホール右手の1階展示場には土肥慶蔵、入沢達吉、熊谷岱蔵、志賀潔、吉岡彌生、木下杏太郎先生の書や色紙、青山胤通、緒方知三郎、古畑種基先生の聴診器、眼鏡、勲賞等が展示されている。石原忍先生書（「一視同仁」）の下には色盲表が置かれ、世界中で使用されている旨解説されてあった。部屋中央のガラスケース内にはベルツの内科書や、ハイツマンの解剖書、次のケースには売薬広告用錦絵が展示されている。痰留飲、積気に効くウルユスや貧血、血の道、脚気に効く福寿散等で、服用后二日で効能著はす候也と説明された極彩色の錦絵である。次のケースは小笠原流産故実伝書や明治4年発行の外国流行伝染病予防法が展示されている。これも綺麗な錦絵でペストに対する予防法が書いてあるが、ここにマントを着た探偵よろしくのドクトル（ガイコクノイシャ）が登場する。ユーモラスな夢いっぱいのポスターである。1階の展示場を後にして黒の廻廊を2階に昇る。右手のショーウインドーに杉田玄白の書、題して「医事不知自然」の額が飾られ、その下には鎌倉時代の病草紙や解剖絵巻が展示されている。隣りのウインドーには「ターヘルアナトミア」が、そしてその邦訳である杉田玄白等が心血をそそいだ「解体新書」が陳列されている。壁面には本間玄調（1804～1872）の書が飾られ、次の解説が記されている。「名を資章、棗軒と号す。青洲に外科を学び水戸家侍医となる。名声高し。瘍科秘録、内科秘録などを著す」。玄調に就て附記すると代々の如く水戸藩の侍医を勤める各医を輩出した本間家の八代目に当り、17才で江戸に出て杉田玄白の子、玄郷に西洋医学を学び、次で長崎に出てシーボルトの最初の弟子となり教えを受けること3年に及んだ。長崎から江戸への帰路、紀州の華岡青洲の門を叩いたのが24才の時であった。ここで更に3年間研究に没頭し、青洲独創の漢蘭併用の新医方を会得し、第一の高弟と云われた。江戸に戻った棗軒は日本橋に門戸を構えたが多年蓄積した医術の粋を発揮しての診療は忽ち江戸府中の評判となった。間もなく水戸藩江戸詰侍医に招かれ、次いで烈公に従って水戸に移り、藩校（弘道館）の医学教授をかねた。

シーボルト愛用の薬箱　楠本周篤殿蔵

華岡青州書　二代華岡青州殿蔵

一階ホール



二階書庫

「瘍科秘録」（15冊）は34才（1837）、「内科秘録」（14冊）は61才の時の著書で、当時の医師の金科玉条とされた。膝関節の離断は劇烈な脱疽に悩まされていた水戸藩の武士岡部辰蔵（35才）に施行して、治癒させたもので、本邦に於ける最初の下肢切断術となった。この玄調の直系の子孫が聖明園園長の本間昭雄氏である。その縁故で医学記念館がこゝに建ったと聞く。この部屋のガラスケースには玄調の「瘍科秘録」、「内科秘録」が展示されている。

又シーボルトの偉丈夫然とした写真、お滝夫人、それに「花神」で浅丘ルリ子が紛した楠本イネの写真が飾られている。ドラマの上だけの話しではなくイネさんは爪実顔の美人で「花神」のいくつかの場面が真実性を以って回想されてくる。

その他、山脇東洋のコーナー、緒方洪庵のコーナー等があり、見了えて偉大な先達、学者達えの想いでいっぱいになる。

医学文化館は、金原出版が創業百年を記念して基金、ならびに運用資金を寄付して設立された財団法人日本文化保存会が開設したものである。

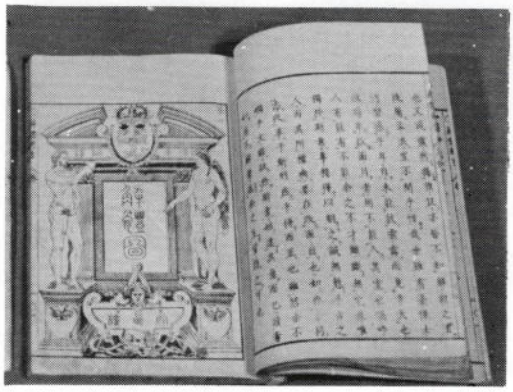
これによって重要な医学文化財が天災や散逸から護られ、広く一般に展示公開されて、研究並びに利用に供され日本医学文化に対する認識を高めることになるであろう。

我国では始めての資料館であり、資料の収集、充実等今后の発展が望まれる。

館長は小川鼎三先生である。

｛休館日：毎週月曜日（ただし祝日、振替休日の場合は火曜日）；　12月25日～1月6日｝

｛開館時間：10.00～　16.30（入館4.00まで）｝



解体新書　大島蘭三郎殿蔵

一階展示室

一階休憩室

およしばあさん

植　田　　稔

ある夏の暑い日の昼下り、およしばあさんとこのお嫁さんが、私に内緒で会いたいとやってきた。お嫁さんは主人の母のことで相談に来たが、夫と義母には内緒である。ばれると大変なことになるから、口外しないで欲しいと声をおとした。

「先生、お母さんは一体どんな病気なんでしょう。私にしてあげられることはなんでしょう。私にはお母さんのどこまでが病気で、どこからが正気か、全く分らなくなりました。」そこで、日頃の生活状態を話してもらった。

昨年の秋のこと、新婚旅行から帰ってきたところ、主人の新しい背広はズタズタに裂かれており、お母さんへのお土産を持って居間に入ろうとしたら、ものも言わず、いきなり主人のほっぺたを叩き、引っかき、手当り次第に物を投げつけて、大変な騒ぎだったという。主人と母のやりとりを隣の部屋で聞いたところでは、主人の諭すような話しは全く耳に入らぬらしく、母親を新婚旅行に連れていかなかったこと、母親一人の手で育てられたのに、お前は自分ひとりで育ったつもりでいるとなじっていた。

私（お嫁さん）に対しては何かにつけてあてこすりをする。たまには、いやらしいこともいう。母が朝早く起きたときは「お疲れですね。いつまでも寝ていていいんですよ。クリスチャンが一晩中棒だらけでよいものかねえ。」と言われたと涙ぐんだ。後で、およしばあさんに聞いたところでは、棒とは男性のシンボルのことであった。

およしばあさんが始めて外来を訪れたのは、お嫁さんのくる丁度二ケ月前、六月上旬のことであった。61才、小柄で色白、自分は負けず嫌いで頑張り屋、社交的だと話した。結婚運に恵まれず、27才で現在の息子ができたが、35才で夫と死別した後は、息子の養育は、戦後の生活難時代をとおして、およしばあさん一人の手で行われた。

息子は32才、初婚、大学卒、はっきり物の言える人。お嫁さんは高校卒、円満な人柄でクリスチャン、柔順である。

およしばあさんの訴えは次のようであった。昨年、息子が恋愛結婚したが、その頃から夜半に目ざめると眠れない。何かにつけて腹が立ち、イライラする。胸の中に淋しさが入りこんでくるようになった。憂うつで、新聞も読めないし、テレビも見たくない。食欲もなく、生きていてもつまらないから死にたくなるという。

初診時は抑制もあり可成緊張していたが、一ケ月程たつと、息子に対する不満をこぼすようになった。息子は冷たい。結婚に反対したせいか、息子は母親の私に黙って、先方の両親に独りで嫁に欲しいと申し込んだ。私と一緒に生活していた高校生の頃はそんな子ではなかった。私に逆うことのない良い子だった。大学へ進学して私の許を離れたことが私との溝を作ってしまった。そして私に内緒で結婚指輪を贈り、先方からもカフス釦が送られてきた。結納金も息子ひとりで適当にやってしまって、私は全てにつんぼ桟敷におかれた。

これに対し息子は、今まで交際したすべての女性に対し、結婚間際になって母はぶちこわしてきた。今回も、最初は賛成していながら、結婚の話しが具体的になると、あらゆることに頭から反対して話しにならないし、自分も32才になるので思い切ってその挙に出たのだと話した。――　私は口にこそ出さなかったが、よくぞやった、それでこそ日本男児だ、と心の中で思っていた。――およしばあさんは続けた。新婚旅行後、ほどなく軽井沢へ行くと言うので私も反対を押し切ってついて行った。息子はまだ新婚だから遠慮すべきだったという。息子は嫁のことしか考えていない。

四ケ月程たったら、およしばあさんの自覚症状は殆んどとれてきた。「うちの日本一はどうせ左巻きだから言っても仕方がない。嫁は教会へ行っているが牧師もキリストも大嫌いだ。お前は日本一の親不孝の大バカヤローだ」と言ったら嫁はシクシク泣き出した。そしたら息子が親孝行息子になるために「じゃあ、千代子（嫁）を追い出そうか。」と嫁の目の前で厭味を言った。「日本一を見ると腹が立つんですよ。」見ただけでムカムカすると言う。「30分早く起きたと言って怒るんですよ。」およしばあさんは嘆いた。しかし嫁さんの話しでは夫婦の寝室の障子をいきなり開けて

ハタキでバタバタやるので主人が怒り出すのだという。お嫁さんの言うことが真相らしい。それでは若夫婦が可哀想だから、およしばあさんにつとめて真剣な表情をして私は忠告した。「そんなことをやっていると、由緒ある名門も息子一代限りになるおそれがあるよ。」

俗に可愛さ余って憎さ百倍といわれる。愛情が強ければ強い程、それが裏切られたときは、逆に激しい憎しみに変りやすいことを言っている。永年養育した母親の許を離れ、嫁の方へ心が走った息子が憎いとなれば、その憎しみは並々ではなかったろうとも思える。また、結婚生活に恵まれなかった孤独の女性が自分の息子を恋人のように愛し、主人に対するように仕えるという倒錯した母子関係かでない限り、これ程の強烈な反応は了解しがたい現象のようにも思える。しかし息子の結婚をきっかけにして、老い先短い母親が強制的に子離れを余儀なくされた結果とも見ることもできよう。若者が希望に燃えて、親の権威に屈することなく、反撥しながら自立の道を模索するのとはちがい、長い間夢み、努力し、漸く築きあげた親子水いらずの安定した生活が脆くも崩れ去るのを目の前にしたとき、年老いた母親はどんな反応を示すであろうか。たぶんおよしばあさんの生さ甲斐は彼女自慢のひとり息子であったろう。

子離れする時期を常日頃から心がけ、その時期を失わないことは、ひとり、およしばあさんに限られたことではなかろう。さて、うちの息子もそろそろ理屈っぽくなってきた。朝三暮四ではいきそうもない。どうしようか。男同志の話し合いを繰返すことにするか。

Monkey Around

道　又　正　達

少々キザながら横文字を並べました。既に御存知の先生方も居られる事と思いますが、「何もわからず、何の自信もなく、ただウロウロするばかりの人間」を評して He's monkeying around. とかあちらでは表現するそうです。まさにこれに該当するのが、数え5－6才（昭和12－13年）頃の私でした。当時私達家族は、A県B郡C町の比較的環境のよい所に住んでいましたが、父開業の為、同じ町内でも俗に裏町と云われていた指定地のあるY町に転居しました。我が家の看板には、花柳の二字が混入していたのを子供ながらにハッキリ覚えて居た。それまでの私の生活は、猫の額ほどの借家の庭を三輪車でチョロチョロ、おやつ時間にはお手々を綺麗に洗って、お行儀よくお菓子を頂き、キンダーブックなる馬鹿でかい絵本を見たりといった按配の箱入息子的なものだった。所が一変して○○楼といった具合に大きな字で染めぬかれた暖簾をぶらさげた格子戸張りの立派な遊廓十数軒がたちならび、それを囲む様に芸者置屋、カフェー、バー、焼きだんご屋焼鳥屋、etc ……それらとは対照的に路地裏の長屋風の粗末な住民達の家屋はいかにも貧相にみえた。指定地は、普段の日は近在の若い衆がチラホラ程度だったが、日曜日ともなると近くの航空隊基地より兵隊さん達が殺到し、顔は勿論首から肩までベッタリお白粉を塗りたくったお女郎さん達と「フィーバー」していた。余りの賑わいに兵隊さん同志のスゴイ喧嘩が始まり憲兵出動の場面さえあった。いま医学的考察を加えるならば、彼等帝国軍人は“Sameningitis”即ち、色情豊かなれど、あの順番を待ちきれず、その処理に難渋し髄膜炎症状を一時呈するチン病と確診する。こんな光景を見ながら、やがて春四月ともなり幼稚園児となった。この町では就学児童の一割弱の入園率であったので、近所の子供達にとっては、大変目立つ存在だったに違いない。そしてこの頃から近所の人達から「坊や坊や」と呼ばれる様になっていた。おそらく「医者の所の男の子」の省略的表現方法？　お陰様で、四年位前のお祭で顔を会わせたら、四級上の四郎さんが「坊やでも、福生の人達に、先生先生と云われているのかヨ―」と冷かされた。扨てこの坊や、園から帰る

と夜七時半か八時頃まで戸外で遊ばなければならなかった。何故なら、父は開業したばかり、母も弟妹の面倒をみながら、薬局に出たり入ったり、看護婦さんも二、三人はいた様だったし、結構流行っていたので家の中に居ると邪魔だったのである。私は止むを得ず外向的性格に切り換えて、思いきって近所の連中に接近していったのである。そして数々の兄貴分との出逢いがあった。そしてその場所は、いつも家の裏のお寺の境内の広場（縦15米　横25米位）であった。

兄貴分その一　（郁ちゃん）

名門中学二年生だったと思う。彼は私をして、ベースボールなるものに初体験させてくれた。場所柄三角ベースボールで、私は外野専門で左翼中堅右翼全部一人で一手に引受ける球拾いだが、試合中行方不明ボールが生じた場合その進行に関係なく探索を続ける特命を受けていた。一方打撃面では、バットを握ったままの立ちん捧、一振することも許されず相手投手の四球を必死に待ち続ける厳命である。折よく出塁すると彼から「坊や、イーゾ」と声をかけられた。一番年下だったし、やっと遊んでもらえる存在だったので、彼の云う通りに一所懸命やった。お蔭で大学時代野球部生活をエンジョイ出来たし、開業当時は近所の若い者と一緒になって、優勝決定戦でサヨナラゲームの立役者ともなった。現在週一回バッティングセンター。彼は、松本商、高等商船、東京大学と進み、現在関西方面で高校教師とか……私が受験勉強していた頃「坊や何処受けるのか」と問いかけられ、「外語」に行きたいと答えたら「馬鹿野郎毛唐の言葉でメシを喰うとは根性がキタネエ」と名言を吐いて立ち去った。

兄貴分その二（酒屋の太市）

子供達は皆呼び捨てにしていた。剽きんな男で、六才位年上だったと記憶している。

彼は何故か同年輩の奴等とは遊ばず、私を筆頭とする鼻たれ小僧を実にうまくだまして、短距離、リレー、マラソン等をやらせて自分が学校の先生になった心算で得意になる癖があった。彼が自分の家の店から持って来た キンシ正宗 の小旗とかビールの宣伝ポスターとかを欲しくてクタクタになりながら、土埃を蹴たて一心不乱に走り続けたものだった。後年彼は、外国航路のマドロスになり、時々帰って来たが、仲々軟派的一面もあり、或る夏の夜、例の寺の墓地に続くうす暗い道を女性と連れだって消えてゆく姿を見た。彼の消息は誰も知らない。

兄貴分その三（畳屋の五郎）

彼は九人兄弟姉妹の五番目の男児で、無類のメンコの名人、いざ勝負となると、一目散に家に帰り、一種独特の臭気を放つコキタナイ羽織をまとってきて、猛風をおこし、相手の最後の一枚までまき上げる次第で、私は彼に負けた奴等のメンコを拾い集める役目で、後から気に入ったメンコを二、三枚手伝い賃に頂戴するのが常だった。

後年彼は夜学に通うかたわらハウスボーイより駐留軍通訳に昇格したが、現在有名中華料理店の店長をしている。きっとメンコで鍛えた逞ましい闘争精神が彼を支えて居るのだろう。

兄貴分その四（鋳掛屋の浅吉）

彼は五郎と同級で、私より三つ年上、こちら喧嘩専門野郎、少々小柄だがガッチリした体格、機敏な動作、腕力の強さは評判で、私は浅吉に憧れたものだ。私なりに水島道太郎（男優）バリのイイ男と思って居る。当然例の寺は、彼の縄張りで、当時はよくお葬式のあと集まった人達に「投げ銭」があったが、こんな時の彼は手下を数人従えて、ゴッソリ拾い集めた。私は一銭か二銭拾うのが精々で、ションボリしていると浅吉親分が「坊や、やるよ」といってポケットに一銭玉を何枚か入れてくれた。私の新しく買ったばかりの自転車を彼に随分乗られたが、文句も云えず我慢しているので可哀相に思ったのだろうか……。このチビッコ俠客は、現在不動産会社々長である。

儲ける奴は、小さい時から何処か違うのかも。その他、車大工の勢吉、魚屋の彦兵衛、棺桶屋の態吉などに遊び遊ばれお世話になった。

毎日三時半頃になると紙芝居屋がやって来たし、稀にはサーカス小屋がかかったり、大相撲巡業やら、女相撲などまでこれ等の遊興費用を、親から小遣いをもらわず、自分の手で拾いまたお情けの恵みで賄った。僅か数才なれど「アッパレMonkey Around（ウロツキ）野郎」因に私は五黄の申歳である。

保険部だより

6月分の返戻件数は下記の通りです。大変少なくなっています。今後も充分ご配慮下さい。

西多摩医師会

診療報酬明細書返戻状況

返　戻　理　由	医科（乙表）件数
1. 記号番号不備不明および保険者名（符号）不一致のもの	39
2. 国保・国鉄等基金と契約してないもの	1
3. 生年および患者名不備あるいは記載ないもの	3
4. 傷病名不備あるいは記載ないもの	4
5. 診療開始日・日数および転記不明あるいは記載ないもの	21
6. 日雇健保で給付期間の満了したもの	0
7. 初診・負担金・再診および往診料について不備不明のもの	8
8. 投薬の場合薬名・用量・回数等が不備あるいは記載ないもの	18
9. 注射の場合薬名・用量・回数等が不備あるいは記載ないもの	1
10. 投薬・注射・X線で点数算出根拠の不明なもの	4
11. 処置および手術で内容の不備なもの	4
12. 検査で検査名・回数・内訳の不備なもの	0
13. 診療内容と摘要欄記入事項とが不一致のもの	0
14. 診療内容および方針の説明を要するもの	8
15. 上記事項に該当しない不備・不明のもの	1
計	112

談話室

米　山　秀　雄

婦人科のG先生が十何年振りかでやって来た。話が次第にはずんでいった。

G「世の中って変るもんだね、とくに戦前の女性は随分苦労して気の毒だと思っていたが今はむしろ恐怖を感じるよ」

H「そういえば戦争前アメリカ生活30年余の伯父が帰朝した時、アメリカの女性は男みたいでだめだ。日本の女性はやっぱり女らしくていいよって言ってたっけ」

G「現在は女性ばかりじゃない何によらず余韻というか、味というか妙味がなくなったね、かさかさしていて深みがないね、もっともそんなことを言うと、それが日本の最大の欠点だもっとはっきりしなけりゃいけない、自由の時代なんだから言いたいことを言って、やりたいことをやらなくちゃ、なんて」

H「若いお母さんは、真赤な唇に真赤なマニキュア、それにチアノーゼのアイシャドーで「風邪なの」なんてぶっきらぼうにいって、鼻たれ小僧を医者の前にすわらせる。胸を出させるとトビヒが一杯、公衆衛生も何もあったもんじゃない」

G「そういえば、こんなことがあったよ。友達の外科の先生が男性の結紮をした。翌日から陰部がはれて仕事にならんと言うので訴えられた。僕が職務上その訴状を見るはめになったので読んでみたら、「仕事が出来なかったから200万円、奥さんに3週間ご無沙汰したので、ご無沙汰料として100万円」とあるんだあきれたね」

H「ハッハッハッ、やっぱり日本の女性の価値が上がったんだね」

道　又　正　達

セ・リーグ、ヤクルト「9」(9月22日現在)とマジックが出て巨人ファンはガッカリ。日本シリーズ会場をめぐっての騒動も決着した様だ。神宮側関係者は、球場使用料、テレビ、ラジオの放送権料、売店収入等で、四試合しめて一億円と云われる金脈を後楽園にもっていかれて頭に来たとか……

これとは規模が小さく比較にはならないが、「先生はともかく奥さんがいいからここに診てもらいにくるのよ」なんてホザく患者様がよくある……若し物好きな仕掛け人が来て家内をとられたら(私の所は鼻ちゃん農業的に開業しているので、非常に彼女に対する依存度が高い)人脈も金脈もなくなり路頭に迷うばかり、正に死活問題である。古女房大切にすべしと肝に銘じた。

医師会日誌

医療機関数	138	病　院	19
		診療所	119
会員数	217	A会員	131
		B会員	86

会　議

9月 8日　役員協議会
9月13日　地域医療対策委員会
18日　会報委員会
19日　休日医療委員会
20日　総務会
〃　保健所連絡会
26日　地域医療対策委員会
27日　理事会

講演会・その他

9月10日　ゴルフコンペ
12日　奇術部例会
13日　法律相談
21日　学術講演会

役員出張

9月11日　都立公衆衛生連絡会
13日　五日市保健所定例会
14日　都医公衆衛生連絡会
16日　休日夜間診療対策委員会(三多摩)
21日　都医会長会
22日　三多摩庶務部会
29日　多摩医学会幹事会

会員通知

○秋期安全運転講習会のご案内
○多摩医学会研究発表会演題募集について
○国家公務員共済組合に係る組合員証等の検認について
○麻しんの予防接種の実施について(第2報)
○健保法改正案作成にあたり学術的社会科学的観点に立って要望すべき範囲と方向
○52年度産業医研修会速記録
○会報
○学術研究会のお知らせ

医師会行事予定

10月14日　管内自治体首長懇談会
18日　学術研究会
19日　市町村国保懇談会
26日　学術講演会

法律相談日

10月11日
11月 8日

理事会報告

8月の理事会開催は19日(土)20日(日)の両日旅行を兼ねて行われる予定でしたが、参加出席者が少なかったため中止となりました。

同好会だより

第7回　西医ゴルフ研修会

と　き　　53. 9. 10.（日）
ところ　　高麗川ＣＣ
天　気　　晴（きびしい残暑）

記

猛烈な残暑の一日だった。「タフ」なことでは定評のある杉本先生が、前夜の疲労と重なったのか、ついにNRということになってしまった程むし暑い一日だった。結果は別表のとおりで、小生が何とはなしに優勝ということになってしまったが、そのことよりも注目すべきは、江本先生が先月に引続きグロス「83」という立派なスコアを出していることである。先月は優勝、今月は同ネット年令差で準優勝ということは、それなりに充実した力を持っている証拠であろう。もう一人注目すべきは宇田先生である。今回は同ネット年令差で4位ではあるが、恐らく数ヵ月のうちにはブッチギリで優勝するだけの力を持っているように見受けられた。

（川崎　記）

氏　名	アウト	イ　ン	グロス	H／P	ネット	ランク	新H／P	その他
川　崎	46	50	96	23	73	優	18	
江　本	40	43	83	10	73	2	9	B・G
葉　山	46	50	96	22	74	3	21	
宇　田	40	48	88	14	74	4		バーディー(1)
大　嶽	49	50	99	22	77	5		バーディー(1)
渡　辺	50	50	100	22	78	6		バーディー(1)
足　立	43	50	93	14	79	7		
波田野	49	52	101	20	81	8		
高　水	49	50	99	17	82	B・B		
鈴　木	50	52	102	14	88	10		
杉　本	／	56	／	24	／			N・R

あとがき

10月麻しん予防接種開始について、非常にタイミングな関連記事を時論に二ツ続けさせていただきました。編集委員会待望の医学文化館の御招介をいただきました市原靖先生に感謝申し上げます。「温故知新」是非この秋にお出掛け下さい。

（道又　記）

表紙写真説明

青梅線も青梅の先は昭和46年2月以来、二俣尾、御岳、古里、鳩の巣を除き7駅が無人駅。次の電車まで30分あまり、ただひとりベンチにポツネンと坐って待つ客、落葉を煙く線路わきの煙、西に傾く日射しを浴びたプラットホームには無人駅のわびしさがある。

（沢井駅にて）

青梅　近藤　肇

昭和53年10月　1日発行
発行所 西多摩医師会
東京都青梅市西分3－103
TEL（0428）23－2171㈹
会報編集委員　川崎健一郎
米山　秀雄　堀田　洋夫　道又　正達
土田　守一　堤　次雄　植田　稔
松原　貞一　桂木　真　足立　卓三

印刷所　マスダ印刷　TEL（0428）22－3047

Cardioprotective Trasacor®

…ストレスから心臓を保護します。

トラサコールは、β-受容体遮断作用のほかに、やや穏やかな膜安定化作用と本剤固有の内因性交感神経様作用(Intrinsic Sympathomimetic Activity: ISA)を有する不整脈・狭心症治療剤で、過剰な交感神経系の刺激から心臓を保護します。

新発売

不整脈・狭心症治療剤

トラサコール®

錠20mg・40mg CIBA

当社は全国のご開業医の先生方だけを顧客とし、29年間あらゆる努力をしてまいりました総合コンサルティング商社です。形は株式会社ですが、実態は協同組合的精神で、すでに6,000余名の先生方を株主にお迎えし、トータルなサービスを提供しています。先生もぜひお仲間にお加わり下さい。

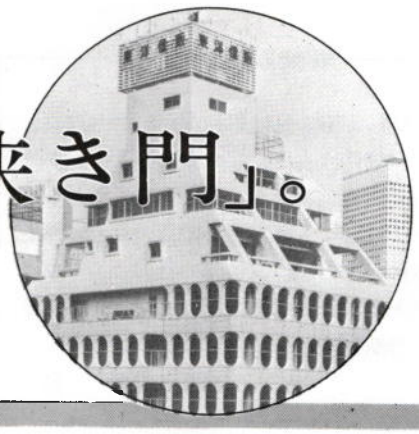
ドクターだけのための総合コンサルティング商社

株式会社 東洋信販

東京都渋谷区代々木4－27－25 ☎(03)379－5111(大代)

代表取締役・大谷昭雄／設立・昭和24年8月／経営総資本金・225億円／従業員数350名／北海道支社（ルーベデンス札幌・札幌営業所）・千葉営業所・埼玉営業所・横浜営業所・三多摩営業所・福岡営業所・ハワイ営業所・富士開発事務所・北海道管理事務所ほか46事業所／関連企業31社

拡げません。東洋信販の「狭き門」。



西多摩担当の荒瀬正博です
よろしくお願いします！